

「ピロリ除菌治療による逆流性食道炎発祥の危険因子の検討」について

<はじめに>

ヘリコバクターピロリ菌は、胃癌や胃十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫などの発生危険因子ですが、除菌治療により、そのリスクが約 1/3 にまで低下することも報告されています。2013 年よりピロリ菌感染胃炎であると診断されたすべてに患者さんに対して除菌治療が保健適応となっており今や国民総除菌時代ともいわれています。

除菌治療の副作用として、除菌後に 5～10%で食道胃逆流症の発症を認めるとの報告があります。

食道胃逆流症は患者さんの生活の質を低下させる疾患であり、除菌による食道胃逆流症の危険性の高さについて把握することは、今後の、除菌後の治療戦略や逆流性食道炎の治療のみならず、疾患の早期発見、早期治療に繋がるのではと考えています。

<対象>

平成 20 年 1 月～平成 28 年 6 月の間に、ピロリ菌感染胃炎であると診断され、除菌療法を実施し除菌成功を確認した患者さんを対象に、カルテから過去の内視鏡検査結果、服薬状況や治療法とその後の経過などの調査を行います。

<個人情報の保護>

情報漏洩を防ぐため、個人を特定出来る氏名や住所などの情報を削除し、また第三者が個人情報を閲覧できないようにします。また、本研究の結果の公表（学会や論文等）の際にも個人を特定出来る情報は一切含まれません。

<調査期間>

～2019 年 12 月 31 日

※調査を希望されないことで不利益を受けることはございません。対象となることを希望されない患者さまは下記までご連絡ください。

研究責任者：松山赤十字病院 消化器内科 部長 蔵原 晃一

研究分担者：九州大学病院消化管内科臨床大学院 原田 英

連絡担当：蔵原 晃一

電 話：089-924-1111